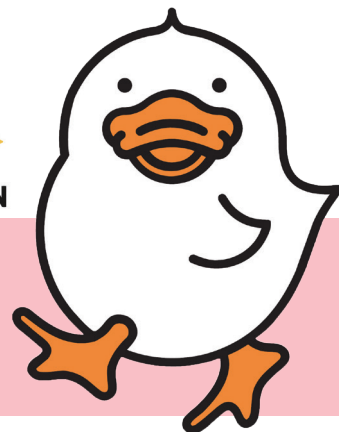


阿南で暮らす14人の外国人にインタビュー



阿南人

Ver.international

大正大学の学生が
取り組むまちづくり





We are the world 「阿南人」

地域人探求・地域体験を学ぶ大正大学地域創生学部の現地実習。今年も全国9自治体で、前半・後半10日間の日程で実施。阿南市では9月30日から6人、10月21日から6人、合わせて12人の2年生が活動。3年生4人もそれぞれの研究テーマで25日間、阿南市に滞在しました。

阿南実習ではこれまで「新野人」(2016)、「新野人 Vol.2」(2018)、「ミライ企業冊子」(2019)、2021年からは「阿南人」シリーズと、地元の人や企業の皆さんとの交流を記録に残してきました。そして今年はAIA(阿南市国際交流協会)のサポートをいただき、市内在住の外国人の方々にインタビューを実施。技能実習や英語指導、結婚、農業体験など様々な動機で来日して、仕事や生活に頑張っている様子や将来の夢な

どを聞き取りました。英語?日本語?・・・互いに探りながらのリアルな会話から「本当は地域の人ともっと交流したい」といった「声」を感じとります。「イベント案内の多言語化が必要では?」そんな学生の提案から河川清掃活動の英語版をSNSで発信すると・・・アニルが来てくれました!

今回の取材で、阿南市にとって外国人がとても大切な存在であることがわかりました。本誌がそのことを多くの皆さまに知っていただく一助となれば幸いです。「外国人とともに支え合う国際都市あなん」を共に創り上げていきましょう。最後に、AIAの野村先生、取材を受け入れていただいた各事業所の皆さまに厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

取材の様子を
動画でチェック!



QRコードを読みとっていただくと、
学生たちの取材風景をご覧いただけます。

大正大学地域構想研究所阿南支局長 地域創生学科 講師
鈴江省吾



Foreigners living in Anan City



「特定技能実習生として活躍！ 将来は日本語の先生に」

特定技能実習生として在留資格をもつミエンさん。技能実習生の在留期間は最長3年までだが、技能実習を良好に修了した外国人は、特定技能1号の資格を得て5年まで日本で働くことが出来る。日本語の習得に役立ったのは『名探偵コナン』や『クレヨンしんちゃん』、『ドラえもん』など私たちにも馴染み深いテレビアニメ。日本語とベトナム語の字幕を付けて学んだそうで、「将来はベトナムで日本語の先生をしたい」という夢がある。「出身地のハノイと比べると阿南は田舎ですが、私は田舎が好きです。阿南の人は優しいし、ベトナムから来たばかりで右も左もわからない頃、仕事もちゃんと教えてくれた」と振り返る。ミエンさんが日頃行っている作業は食材の選別や加工などで、仕事に楽しさを感じているという。休みの日は地域のイベントや祭りなどに参加することもあるそうで、「日本語の上達のためにも、もっと地域の人と話したい」と語った。



プロフィール

メグミフーズ株式会社
グエン ティ ミエンさん

ベトナムの首都ハノイ出身。24歳。
2019年から5年間、メグミフーズ株式会社に勤務。技能実習生の友人とともにTDLやUSJなどへ行くことも。



「将来の夢は通訳。 ベトナムの日本企業で働きたい」

働きながら日本語の勉強をするのは大変で、「仕事と勉強の両立がとても難しい。漢字も苦手」という。日本語の勉強方法のひとつとして教えてもらったのが、ベトナム語の字幕付きで映画『火垂るの墓』を見ること。ベトナムではジブリ映画の中でも『火垂るの墓』の人气が高く、トゥホンさんもよく見ているという。休みの日は日本各地に友達がいるため、東京や大阪、栃木や兵庫など様々なところへ旅行することも。遊びに行くには公共交通機関を利用しないといけないため、不便さを感じるものの、「阿南の人はとてもやさしい。自然も美しく、食べ物も安い」と日常生活には満足している。花火大会や地域のイベント、祭りにも参加し、近所を散歩するなど、阿南での暮らしを楽しんでいる。将来はベトナムへ帰って、日本企業で通訳として働きたいという夢を持つトゥホンさん。その夢が叶うよう、応援したい。



プロフィール

メグミフーズ株式会社
グエン ティ ホアイ トゥホンさん

ベトナム出身。34歳。インターネットで缶詰・びん詰等の専門メーカー『メグミフーズ株式会社』の求人を見つけ、2019年から5年間勤務している。主には栗の皮むきや瓶詰めなどの作業をしている。





プロフィール

雍 子璘 (ヨウ シリン) さん

中国四川省出身。国際交流基金の交流プログラムに参加し、留学生として来日。富岡西高校の1年生の16歳。バドミントン部と茶道部を掛け持ちしている。名前の「子璘」はキレイな玉という意味。優れて美しいことを表している。



「様々な人との出会いを通じて、自分らしく生きる道を探したい」

取材時は日本に来て約1ヵ月。中学生の頃から日本語を約4年間勉強していて、会話もスムーズだが、「阿波弁が聞き取れない。方言が難しい」と悪戦苦闘しているという。日常会話で使用する言葉や方言が教科書で学んできたものと異なるため、戸惑うことも多いそう。休みの日は阿南市国際交流協会が行う日本語教室へ通っていて、演劇や落語を楽しんでいる。同じように日本語教室に通うインド、インドネシア、アメリカ、フィリピン、中国など様々な国の人々と仲良くなり、将来についてアドバイスをもらうことも。「何か熱中できるような、好きなことを見つけなければならないと思っていたが、様々な人と関わって、どうすれば楽しく生きることができのかを考えるようになった。人生には色々なカタチがあるとわかった」という雍さん。阿南での生活も始まったばかり。少しずつ言葉や風習に慣れながら、この土地ならではの魅力を発見して欲しい。



雍さんに故郷の様子について伺うと中国の人形と家庭料理の写真を見せてくれた。



プロフィール

エカティコムキット・ナッタキットさん

タイ バンコク出身の22歳。通称オトさん。2020年来日し、東京の日本語学校で1年間学んだ後、留学生として阿南工業高等専門学校で情報分野を学んでいる。



「“全国高専プログラミングコンテスト”への出場経験も！日本食も探求中」

プログラミングが大好きで、2年前に「全国高専プログラミングコンテスト」に出場し、競技部門で決勝戦への進出。並列計算を駆使した高度なプログラミング技術により、全49チーム中6位という好成績を残した。自然が大好きで、休みの日は北の脇海岸へサイクリングしたり、写真を撮ったり、のんびり過ごす時間を大切にしているそう。「阿南の人は何事も丁寧に教えてくれて、優しい」と話す。日本食にも興味があり、阿南市内にある広島お好み焼き専門店『じゃけん』へ行ったり、食べたことのない料理にもトライしている。好物はざるそばやそうめんなど麺類だが、昨年の夏は阿南市国際交流協会が主催するイベントで初めてかき氷を食べたそう。普段はタイ人のルームメイトとシェアハウスで生活していて、自炊中心。最近は方言にも慣れ、阿波弁も少し話せるようになった。「今、学んでいる情報分野の知識をいかせる進路を検討中。あと2年間は日本に滞在し、将来を考えたい」と抱負を語った。



第33回全国高専プログラミングコンテストの様子(左)。他の留学生と共に阿南市人権フェスティバルに参加した際は着物を着て生花や書道作品の展示見学も。



プロフィール

Isabelle Boatright (イザベル ポートライト)

アメリカ サウスカロライナ州出身。2022年9月にJETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業 The Japan Exchange and Teaching Programme)で来日。徳島県立富岡西高等学校のALT。将来的にはアメリカに戻り、医師になる夢を持っている。日本食で好きな料理は天ぷら。

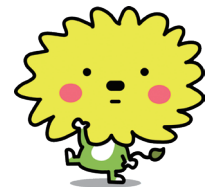


「ゆるキャラ大好き！あななんのクールな魅力にドハマリしてます」

阿南に来て良かったことは、一緒に働く先生たちがとても親切なこと。先生たちから日本語を教わることもあるそうだが、「日本語の文法は頭が痛くなるほど難しい」と苦笑する。生徒たちとも良好な関係を築いていて、言葉の壁があるものの、「彼らはとてもいい子」と笑顔やジェスチャーなどで心を通わせているという。阿南市の印象を訊くと「地域の人たちがとてもあたたかい。阿南の美しい海を見ると癒やされる。特に気に入っているのが、阿南市のゆるキャラ『あななん』。無表情なところがクールで、カッコいいという。休日は日本国内やアジアの国々を旅行することもあり、取材時は高知県で行われた『ご当地キャラまつり in 須崎』で撮った「さのまる」などの写真も見せてくれた。ゆるキャラの他、日本のアニメも好きで、バレーボール選手の弟はアニメ『ハイキュー!!』の大ファン。弟とはとても仲が良く、よくその話題で盛り上がると話してくれた。



授業の様子。



イザベルさんが「大好き！」というあななんは、阿南に咲くひまわりから生まれたライオンのようなキャラクター。



プロフィール

ケルヴィン・アブライさん(写真左)

アセデラ・スティーフェンさん(写真右)

フィリピン出身。2023年10月に2人一緒に来日。技能実習生として自動車整備工場では整備士として働いていて、住居も同室。好きな日本食は2人とも焼肉。



「整備士としてのスキルを磨き、日本で得た知識と技術を母国でいかしたい」

「阿南には車の整備士としての勉強をしに来た」と話すケルヴィンさん。「整備の仕事は大変さよりも楽しさの方が大きい」というアセデラさん。2人とも車が大好き。整備をすることに誇りをもっている。フィリピンにいる頃から整備士として働き、5年のキャリアがある。日本に来て感動したことは、雪を見たこと。「フィリピンには四季がないので、雪も降らない。お花見や阿波踊りなど日本の文化も素晴らしい。阿南の自然も美しく、人もあたたかい」という2人。日本で過ごして1年となるが、漢字には苦労していて、阿南市国際交流協会の日本語教室に通い、勉強を続けている。漢字が読めるようになったことでバスにも乗れるようになり、日本での生活にもだいぶ慣れてきた。「日本で得た技術を祖国で存分に発揮したい」と、同じ志を持つ仲間とともに技術レベルの向上を目指し、日々研鑽を積んでいる。



アセデラさんもケルヴィンさんも来日前に4ヵ月ほど日本語を勉強。日常会話は問題ないが、方言などには苦労している。



プロフィール

Anil Raj (アニル ラッジ)さん

父親はシンガポール、母親はインド出身。39歳。2024年9月に短期留学生として来日し、国立阿南工業高等専門学校に通っている。趣味はサイクリング。自然豊かな阿南が大好きで、わざと迷子になって新しい景色を開拓している。



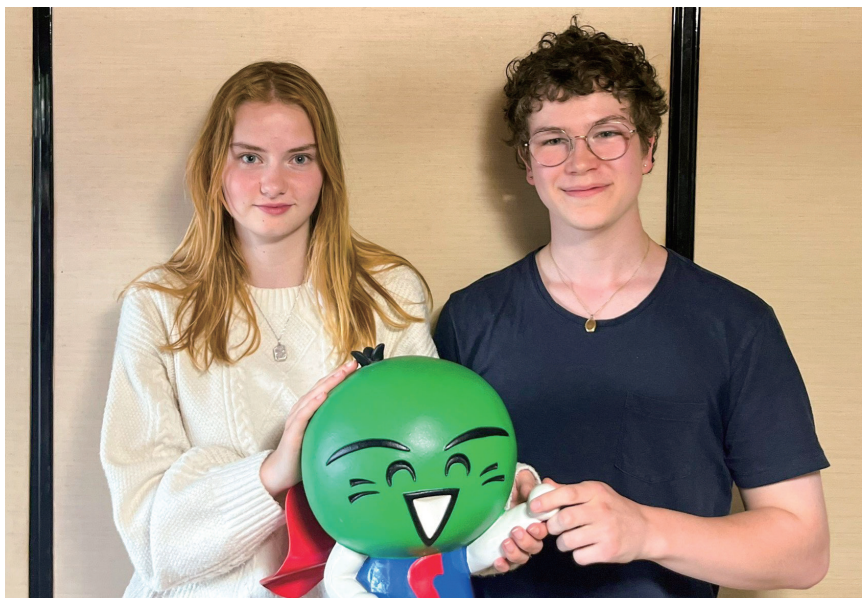
阿南市主催の桑野川のリパークリール活動にも参加。



取材時に通訳してくれた辻岡健人さん。辻岡さんはベトナムで長期居住経験のある日本人学生で、ふだんからアニルさんと交流がある。

「一念発起し、 学び直しを決意。 留学生として阿南市へ」

シンガポールでは保険会社や旅行代理店など様々な職業を経験。その中でも一番楽しかった仕事は料理人だったそう。しかしシンガポールは学歴社会。これまであまり勉強してこなかったアニルさんは、給与アップと自身が目指すキャリアパスに繋げようと一年発起して Republic Polytechnic Singapore へ入学。工学系の実務に直結した学位を取得するため、留学を決意（阿南高専は3ヵ月～5ヵ月、提携大学からの短期留学を受け入れている）。「阿南は自然豊かで、ごみや環境に対する意識も素晴らしい。生活リズムがゆったりしていて、新たなものを吸収する環境が整っている」という。プログラミングや設計を学びながら、充実した留学生活を送っているが、唯一困っているのが日本語の習得。週末は阿南市国際交流協会が主催する日本語教室に通っている。「私と同じような短期留学生も多いはず。SNSなどを活用し、阿南市国際交流協会のことをもっと多くの人に知ってもらえるといいと思う」と話した。



プロフィール

Anja Meiriel Lehfelt (メイ)さん

Simon Ehrhardt (サイモン)さん

ドイツのハンブルグ地方の高校の同級生。加茂谷すだちパークで6ヵ月間の日本滞在型プロジェクトに参加し、すだち収穫や古民家リノベーション、地域住民との交流などを体験している。滞在中は古民家シェアハウスで過ごし、この時はメキシコやイタリアなどから5人の若者が参加していた。



加茂谷ではすだちの収穫などを体験した。

「加茂谷地区を 一言で表すと “PEACE FULL”」



元々日本のアニメが好きだったサイモンさんと妖怪文化に興味があったメイさん。自然の中で様々な体験ができるプロジェクト内容に惹かれ、阿南市を選択したそう。加茂谷地区の最大の魅力は「平和で静かな環境」という2人。2人が暮らすドイツのハンブルクは、1日の平均利用者は約55万人ともいわれるドイツ最大の利用者数を誇るハンブルク中央駅があり、「街の騒音はストレス」という。加茂谷は阿南の中でも自然豊かで過ごしやすい地域だが、意外にも困っているのが「水」なのとか。ドイツの水に比べ、塩素濃度の高い日本の水はしょっぱく感じるため、大きな炭酸水を購入し、飲料水として利用している。また加茂谷といえはかつて洪水による浸水被害にも遭ったところだが、近年、ドイツでも集中豪雨による大規模な水害が起きていることもあり、あまり問題視していないという。ドイツに帰国するまでの間、ここでしかできない体験を通じて「視野を広げたい」と話した。



「人生初の仕事は阿南！ 優しい阿南人とふれあい、 充実した日々」

日本の規律正しさや文化、技術力などに魅力を感じ、外国人技能実習生として来日。『たむらのタマゴ』は人生初の職場で、働く楽しさを感じているという。勤務は月曜～土曜。休みの日は日本語教室に通い、知らない言葉に出会う度、日本語の面白さと難しさを感じている。「日本の文化が大好きで、特に日本の祭りや花火大会、阿波踊りが好き。阿南に来てからは、日本語教室の仲間と一緒に眉山や室戸岬の水族館にも行って、仕事以外でも楽しい時間を過ごしている。インドネシアと比べて、日本は自然災害が多く、台風や津波が不安だけど、阿南市は故郷チラチャブに似ていて過ごしやすい」と話すメリサさん。将来の夢は飲食店を経営すること。インドネシア料理と日本料理を提供する店を作るのが夢だ。普段の生活で困っているのはゴミ分別。「分からないことは周りの人が教えてくれて、阿南の人々の優しさを感じる」と話してくれた。

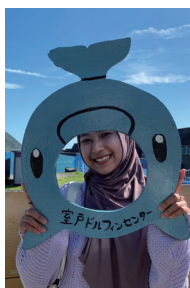


プロフィール

たむらのタマゴ

Melisa Lestari (メリサ レスタリ) さん

インドネシアのチラチャブ出身。20歳。5人家族で3姉妹の次女。高校卒業後、インドネシアの日本語学校を経て、2024年6月に来日。頭を覆うヒジャブはイスラム教徒の証。礼拝は1日5回。仕事がある日も祈りを捧げている。



AIAのバス遠足で『むろと
廃校水族館』へ。



黙々と卵を割る作業をする
メリサさん。



「日本で夢を実現！これからも ずっと日本で暮らしたい」

日本から飛行機で11時間。ネパールのGHANDRUKから来日して7年。技能実習生の日本語能力は簡単なやり取りができる程度のN4～N5なのに、ラスミラさんは介護、福祉系の専門用語に加え、日常会話やビジネスシーンのやり取りも理解できるN2レベル。最初は戸惑った阿波弁も現在は難なく使いこなしていて、お年寄りとの会話もスムーズに行える。「日本に来たきっかけは子どもの頃から日本が好きだったから。ネパールの家の近くは観光名所で、多くの日本人が訪れていた。日本人＝優しいと親しみを感じていて、いつか日本で働き、看護師になりたいと思っていた」と話す。来日した当初は日本食が苦手だったが、今は自分で調理するまでに。スパイスなどをインターネットで購入し、ネパール料理を作ることもあり、異国の地から故郷に思いを馳せることも。日本での生活は気に入っていて「これからも日本で暮らしたい」と話してくれた。

プロフィール

Pariyar Rasmila (パリアル ラスミラ) さん

ネパール出身。7年前に来日し、ビジネス学校2年、日本語学校2年、介護専門学校2年を修了し、令和5年4月から阿南市の特別養護老人ホーム阿南荘に就職。趣味は誰かとおしゃべりすること。介護の学校時代の友人とは現在も交流が続いている。



故郷ネパールの様子。



優しく丁寧な仕事ぶりでお年寄りからも人気。



プロフィール

Klebere Perry (クレバー・ペリー) さん

南アメリカ上部のカリブ海に浮かぶ島国バルバドス出身。来日前はバルバドスで博物館のツアーガイド、島の観光ガイドの仕事をしていた。



「中南米バルバドスから来日。 ALTとして阿南の英語教育を支える」

来日前はツアーガイドや観光ガイドの仕事をしていたクレバーさん。4年前に中学校のALTになり、現在は阿南市内の3つの中学校で週に5日間、英語を教えている。来日当初は漢字が読めず、ストレスを感じていたが、今では簡単な漢字は理解できるようになり、阿南での生活は快適だという。2024年1月から地域の太鼓クラブにも参加していて、活動を通して様々なコミュニティや地域の人と交流を楽しんでいる。ALTの任期を終えた後は、母国に帰る予定だが、「もし家族が阿南に来たら、お松大権現や岩脇公園の桜を案内してあげたい。お気に入りの場所は『16F COFFEE ROASTERS』。コーヒートとパスタがおすすめ。いつか再び、この魅力あふれる阿南に戻ってきたい」と話してくれた。



故郷バルバドスの風景。



羽ノ浦町の公民館フェスティバルでは和太鼓クラブの練習の成果を発表。



プロフィール

Marybeth Morioka (マリベス・モリオカ) さん

フィリピンのマニラ出身。阿南市内の小学校で英語教育のサポートをしている。フィリピンで現在の夫（日本人）と出会い、結婚を機に来日。3人の子どもに恵まれる。今年で来日30年。



「阿南に来た外国人をサポートする “みんなのお母さん”」

30年前、結婚を機に来日。3人の子どもに恵まれるが、子育てをはじめた当初、阿南に住む外国人はごく僅かで、何をすることもコミュニケーションで聞いたという。日本語のプライベートレッスンなどして勉強し、「不便なく会話できるようになるまでに3年はかかった」と振り返る。来日2年目で運転免許を取得する際も、外国人の受け入れは初めてで、周囲も戸惑ったそうだが、阿波おどりや生花など文化体験といった地域のイベントへ積極的に参加し、徐々に交流を深めていったというマリベスさん。阿南に来た外国人のサポートも行っていて、今では「何か困ったら、マリベスさんに訊けば分かる」といわれるほど、周囲から頼られる存在だ。2008年からは英語教育の補助教員として小学校に勤務。「子どもたちにたくさん英語を教えて、英語でコミュニケーションの楽しさや喜びを伝えていきたい」と笑顔で話した。



バス遠足で香川県の「中野うどん学校」へ。うどん打ち体験を体験。

外国人をテーマにした 個人研究

インタビューを通じて感じたことや疑問に思ったことを4人の学生がそれぞれのテーマごとに探求しました。

外国人と労働環境

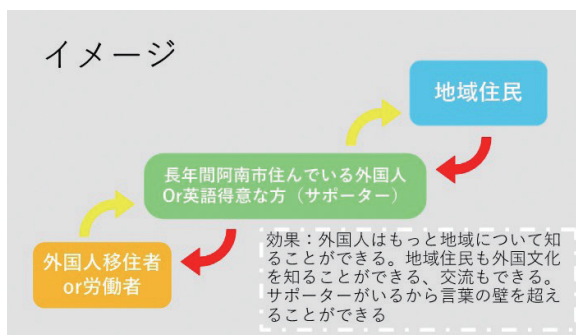
樽井春香



日本で働くことを母国の家族が「心配しているのでは?」と思い、外国人の労働環境や職場での安全性がどう守られているのかを調査。阿南労働基準監督署に話を訊くと外国人、日本人の区別なく、法のもとに守られていることが分かった。相談窓口もあり、こうした機関があることで「日本は働きやすい国」として知られ、家族の安心にもつながっている。今後も日本の労働基準について多くの外国人に周知を図ることが大切だと感じた。

地域住民と外国人とのふれあい

山下欣恵

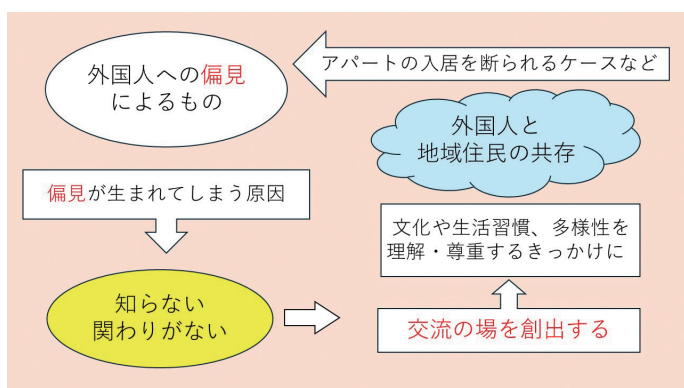


富岡商店街のハロウィンパレードに参加したが、外国人の親子の姿はなかった。インタビューでは「イベントも好き」という声が多かったが、外国人に「情報が届いていないのでは?」という疑問が湧いた。外国人と地域住民とのふれあいの場を増やすためには、長年阿南市に住む先輩外国人に運営のサポートを依頼したり、行政の協力も得て多言語で情報発信を行うなど、多様性を重視した対応が求められると感じた。

外国人をより身近に 地域のコミュニティづくり

高梨 雄

阿南市で暮らす外国人は2024年時点で約400人。農業、福祉、食品製造など外国人の労働力に頼っている分野もあるが、外国人に対する偏見もある。こうした偏見は普段の生活で外国人との関わりがないことが一因。「阿南市」を移住先、就職先として選んでもらえるよう、多言語での情報発信を行い、外国人と共生する多様性を重んじたまちづくりが必要と感じた。



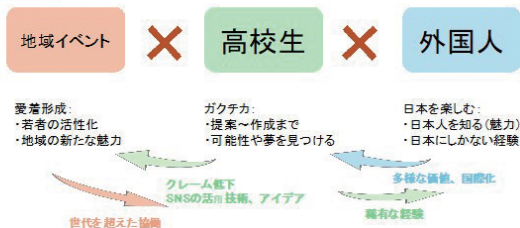
外国人×イベント ×高校生

松本朝陽

外国人と地域の人のふれあいの機会を増やすため、高校生や子育て世代にもっとAIAの活動を知ってもらいたい。その一歩として高校生と外国人がイベントを一緒に楽しめるよう、「夕暮市場」への共同出店を行ってはどうか? 長崎市で行われた「若者100人交流会」など、若者を巻き込むことで新しいアイデアも生まれ、地域との交流の輪も広がっていくのではないかと考える。



提案と目的



近い将来、国際化は進んでいく
徳島県内で先進的な町を目指す

※夕暮市場・・・月1回、第1水曜の夕方に阿南市役所ロビーで行われるマルシェ。
地元高校生もブース出展するなど運営に参加している。

その他の個人研究

阿南市に滞在中、各自がテーマを設定し、そのテーマに基づいてフィールドワークを行いました。地域課題を掘り下げて調査することで、地域の魅力を再発見する貴重な機会となりました。

変わらぬ景色牟岐線

佐藤湧介



阿南駅からJR牟岐線で福井駅まで行ってみた。車窓から見る田舎の原風景に心を奪われる。しかし、一日当たり平均乗降者数は1000人を大きく切り、存続の危機にある。地域の大切な路線を存続させるため利用客を増やす方法を提案したい。

- ①スタンプラリー（QRコードを無人駅に設置して有人駅で景品交換。沿線の施設や飲食店利用のサービス特典も）
- ②フォトコンテスト（沿線の写真を拡散してもらう。企業やアニメとのコラボも）
- ③持ち運びできるレンタルサイクル（好きな駅で降りて周辺を散歩）

どうすれば子どもが幸せに 生きることができるか

笠原一輝



子どもの福祉に興味があり、「あすきら」取材した。「あすきら」は阿南市と公益財団法人B & G財団（東京）によって整備された子どものための「第三の居場所」（対象は小学1年生～高校3年生まで）。学習支援や食事支援などを行っていて、長期休みはSUPなど様々な体験もできる。ボランティアでサポートする大人たちの居場所、生きがいにもなっていて、利用する子どもと話ができたが、とてもいきいきしていた。

スポーツの力で地域活性化 （スポーツビジネス）

平田雪乃

関心テーマ 「スポーツビジネス」



家族全員が野球好き。野球の競技人口が減っていることに危機を感じつつ、球団職員の仕事に興味を持っている。阿南市を実習地に選んだのも「野球のまち推進課」があることがきっかけだ。滞在中、阿南市ゆかりの某球団職員のTさんにオンラインで話を聞く機会を得た。球団の業務は多彩で子ども向けの野球スクールやイベントなど野球を通して様々な仕事があると聞き、野球で地域活性化を目指すのではないかと思った。今後は「子ども×地域×野球」についても考えたい。

ドローン活用で地域創生

石野貴輝



阿南市は若者に人気のあるITや情報通信系の会社が少ない。若者をターゲットとした関係人口増加のために何か出来ることはないかと考え、実習期間中に訪れた伊島の美しさに「阿南市の魅力は“絶景”だ」と確信。同時に「ドローンビジネス活用勉強会」で3D映像撮影やオルソ画像など想像を超えた進化と大阪・関西万博でのイベントショー（光と音のスペクタクルショー「One World, One Planet.」）

の実施を知り、阿南の絶景空撮とドローンショーをあわせたツアーを提案したい。

阿南市を観光地として 栄えさせるためには!?

増田 颯



自主活動で大塚国際美術館へ行った。鳴門市最大の観光スポットで、美術ファンだけでなく、ファミリーや団体旅行客など大勢が来館し、周辺の宿泊施設や土産物店などの地域経済に貢献している。一方、阿南市は「遊ぶ場所や観光地がない」と言われ、豊かな自然をいかした SUP などのアクティビティを十分に観光に活用できていない。そこで LED を用いた新たなデジタルアートや農業景観を生かした「田んぼアート」などにチャレンジしてみてもどうだろう。

「キラキラあなん」 活用調査と市民の声

藤本美貴



阿南市駅前の活性化を図るため、フリースペース「キラキラあなん」の活用についてヒアリングを実施。実施期間は3日間。「キラキラあなんに希望すること」「駅前や周辺に希望する施設」等について、アンケート（無人紙媒体）と利用者へのインタビューを行った。意見を集約すると大きくは下の通り。

- ①サービス改善（Wi-Fiや時計の設置、冷暖房の最適化、個室空間の確保）
- ②イベントの開催（隣接の広場も活用したワークショップや交流会の実施）
- ③パンフレット・SNSの活用（「キラキラあなん」の利用方法や情報をまとめた内容でイベント時に地域住民や利用者に配布して認知度を向上させる）。

阿南の風景

田中沙季



昔から写真を撮ることが好きで「特に田舎の風景が大好き」と、鈴江さんに話したところ、フォトコンテストなどで入賞経験のある岩浅陸生さんを紹介いただいた。岩浅さんは「阿南の素晴らしい景色を知らない人に届けたい」との思いで、地域の写真を撮り続けている。実習中に「地域コーディネーター」という仕事についても知り、興味の幅が広がった。自分の“好き”を仕事に出来るよう、様々な体験をしていきたい。

伊島を観光で盛り上げる!!

木坂阿天音



観光による地域活性化や地域の魅力の活用法に興味がある。そこで四国最東端の離島、伊島に着目。5月下旬～6月は島の固有種イシマササユリが咲き、「日本の重要湿地 500」に選定された湿地には希少昆虫や水生植物が生息している。伊島に流れるゆったりした時間を体感できる宿泊施設を作ってはどうか？島に来た人それぞれが撮った写真を展示し、島のひととの会話を楽しみ、風の音や鳥のさえずりに耳を傾ける特別な体験が待っている。

外国人は地域社会の大切なパートナー

～阿南市国際交流協会の活動や阿南のイベントなどもっと多くの外国人に情報を届けたい～

『阿南人 Ver.international』の制作にあたり、阿南市在住の外国人の方を紹介していただいた野村さん。協会の活動や外国人の方々の素顔についてお話を伺いました。

—阿南市国際交流協会はどのような活動をされていますか？

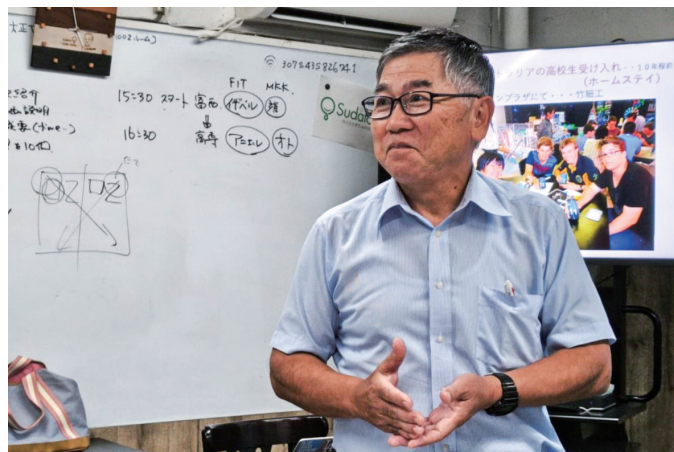
現在、阿南には約400人の外国人が暮らしています。そうした外国人を対象とした日本語教室や料理教室のほか、バス遠足や新年会、日本語スピーチコンテストなど、外国人が阿南でうまく生活できるよう、また市民のみなさんと仲良く交流できる支援を行っています。特に日本語のサポートが柱です。

—日本語教室には何人ぐらいが参加していますか？

富岡教室と新野教室の2カ所で行っていますが、参加者はだいたい20人くらいで東南アジアから来た技能実習生が多いです。日本語教室の他に日本のルールを学ぶ交通安全教室や地震や津波に備える防災教室なども行っています。中国、ベトナム、シンガポールの人は日本語をマスターして帰国すると、母国で良い仕事に就けるため、日本語の取得への関心が高いです。

—技能実習生について教えてください。

技能実習生とは、日本の企業や団体に技能を習得するために来日した外国人のことです。日本で稼いだお金を家族に仕送りして、いい暮らしをさせたい、幸せにしたいという思いが強く、仕事を一生懸命にやる人が多い。実習先としては大阪や神戸など時給が高いところが人気ですが、地方の労働力としても今や欠かせない存在です。実習生を経て正社員になり、バリバリ働いている人もいます。



阿南市国際交流協会 副会長 野村誠也さん

教職を退職した頃、自身が英語教師になるきっかけになった中学校時代の恩師と偶然再会。「一緒に活動しよう」と誘われ、活動を開始。「外国人とは英語で会話するものと思っていましたが、母国語が英語でない人も多く協会の活動を始めてから知りました。外国語が話せなくてもOK。興味のある人はぜひ、参加してください」。

—外国人同士の交流はありますか？

阿南市国際交流協会での活動をきっかけに友達になる人も多く、同じ国の人同士のSNSコミュニティがあり、情報共有して一緒にあちこち旅行に行ったりもしているようです。

—何か課題はありますか？

日本語教室の参加者が少ないので、教室があることをもっと多くの外国人に知ってもらいたいと考えています。これからさらに増えるであろう外国人と地域とが互いに理解し、協力し合って生活していくためにも外国人を支援するAIAの役割がますます必要になってくると思います。外国人はまちづくりのパートナー。地元の人たちに国際的な視野をもってもらうためにも、市民との交流機会を増やしていきたいと考えています。



野村先生へのインタビューは、真剣に学びながらも時折笑いがこぼれる、充実した時間となりました。AIAの活動に興味をもち、もっと多くの人に活動を知ってもらおうと様々なアイデアが飛び交う場面も。白熱しつつも終始、和やかな雰囲気でした。

—そのために注目している取組はありますか？

「野球のまち」の活動です。モンゴルとは長年、野球交流を行っていますし、野球に似た競技「Tボール」の国際大会には数カ国が参加し、大いに盛り上がりました。スポーツを通じた交流は素晴らしいと思います。

—これから力を入れたいことはありますか？

様々な表示や標識、パンフレットなどの多言語化や外国人向けの情報発信の強化、市民への啓発活動や交流の場づくりです。こうした課題に加え、協会で活動する後継者の育成も課題です。個人的には若い人を巻き込み、外国人相談センター的な役割を果たしていきたいと思っています。

—最後に『阿南人』の読者へメッセージをお願いします。

『阿南人』の完成を楽しみにしています。学生のみなさんが外国人の方々を取り上げてくれて感謝しています。冊子を通じて市民の人が外国人に関心を持ち、阿南で暮らす外国人が日本語教室や協会のイベントに参加してもらえるきっかけになることを期待しています。



阿南市在住外国人を対象にAIAが主催する「日本語スピーチコンテスト」(2025年1月開催)。日本での暮らしや将来の夢について5分間、日本語で発表する。参加した外国人にとっては日本語への理解を深める場となり、日本人にとっては外国人の思いを聞くことが出来る機会となっている。



インタビューに応じくれたアニルさんやメリサさんも参加。参加者には参加賞や賞金も！年に1回開催されているので、外国人のみなさんはぜひご応募ください。

阿南市国際交流協会 (AIA) / 会長 荒谷みどり

Anan city International Association

1990年10月に創立。阿南市内在住外国人の支援活動を行なっている(日本語教室や阿波踊り等の交流など)。2021年に30年記念誌を発行。現在、阿南市在住の外国人は約400人。

在住外国人のためのほんごきょうしつ

受講料無料(お金はいりません)

富岡教室 日曜 10:00 ~ 12:00

場 富岡公民館(阿南市富岡町西池田135-1)

新野教室 日曜 13:30 ~ 15:30

場 新野公民館2階 生涯学習教室(阿南市新野西馬場18)

申し込み・連絡先 阿南市国際交流協会(阿南市富岡町今福寺34-1 阿南商工会義所駐車場内)

TEL 0884-49-5388

FAX 0884-49-5486

E-mail ananinternationalexchange@gmail.com



30周年記念誌



定期的に発行される会報紙「AIAニュース」

ホームページはこちら！



取材に協力いただいた 企業・団体からの メッセージ

メグミフーズ株式会社



<https://www.megmifoods.co.jp/>

創設66年目の缶詰・びん詰等の専門メーカーで、果と筒製品は日本一の製造量を誇ります。原料の仕入-入荷-製造-出荷-お客様フォローまで一貫して対応しています。実習生の方々のお力添えが無くしては製造を続けていくことができない程、大切な担い手となっています。

加茂谷すだちパーク



<https://kamodani-sudachi.jp/>

すだちの収穫作業に国際ボランティアの皆さんが来てくれました！異文化交流を楽しみながら、力を合わせて収穫を進めています。

特別養護老人ホーム 阿南荘



<http://anan-hukushikai.com/publics/index/21/>

阿南荘は介護の必要な高齢者約140名が12のグループに分かれて暮らしている家庭的な施設です。ラスミラさんが阿南荘で介護を始めて間もなく4年。言葉の壁を不断の努力でクリアし、入居者や同僚から厚い信頼を得ています。これからの活躍も大いに期待されます。

有限会社桑野自動車



<https://www.kuwano-jidousha.com/>

ケルヴィンとスティーフェンが桑野自動車に来てから、毎日掃除や挨拶をちゃんとしてくれて、仕事にも一生懸命取り組んでくれていて、私たちはすごく助かっています。これからも知識や技術をたくさん学んでいってほしいと思っています。

株式会社たむらのタマゴ



<http://tamura-tamago.com/>

メリサさんは卵黄と卵白を分けて製品を作る「液卵」部門に所属しています。衛生管理がとても大事な仕事ですが、コツコツと真面目に取り組んでいます。メリサさんが作ってくれた「ナシゴレン」や「テンペ」はとっても美味しく、インドネシアをより身近に感じられました。うれしかったです。

用語解説



★インタビューでよく出てきた言葉をまとめました！

技能実習生 …

技能実習生とは、日本の「技能実習制度」に基づき、主に開発途上国の人々が日本で特定の技能や技術を学び、母国の経済発展に貢献することを目的とし、来日する外国人を指す。実習期間は通常1～5年で農業、建設、製造業などの分野で、働きながら学ぶ。「技能実習制度」は技術移転と国際貢献を目的としているが、労働力確保の一環と捉えられることもあり、労働環境や待遇に関する課題も指摘され、制度の改善も求められている。

特定技能実習生 …

技能実習2号を修了すると特定技能1号の資格を得て、在留資格の更新により、通算5年まで在留できる。技能実習は海外にいる外国人を採用するしか方法がないが、特定技能は日本に在留している外国人の受け入れも可能。特定技能は日本語レベルがJLPTのN4以上、JFT-basic200点以上であることが条件とされる。

ALT …

ALT (Assistant Language Teacher) とは、日本の学校で英語教育を補助する外国人講師のことです。主に小・中学校や高等学校で、日本人の英語教師と連携しながら、発音指導や会話練習、異文化紹介を通じて英語教育を支援します。JETプログラム (Japan Exchange and Teaching Program) の一環として採用されることが多く、ALTは生徒が実際の英語に触れる機会を提供し、国際理解を深める役割を担っています。

日本語能力試験 …

(JLPT: Japanese Language Proficiency Test)

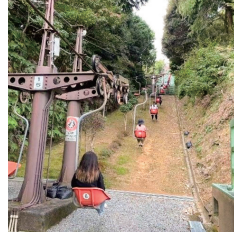
日本語を母国語としない人々を対象に、日本語の理解度を測定する試験。試験はN1(最上級)～N5(初級)の5つのレベルに分かれており、言語知識(文字・語彙・文法)、読解、聴解の能力を評価します。試験結果は留学や就職、永住権申請などで活用されています。

編集後記



笠原 一輝

阿南市に住む外国人の方々が、どのような想いで日々を過ごしているのか、その姿や気持ちを少しでもお伝えできれば幸いです。インタビューを通じて皆さんと楽しい時間を共有できたことに、心から感謝申し上げます。貴重なお話をありがとうございました。



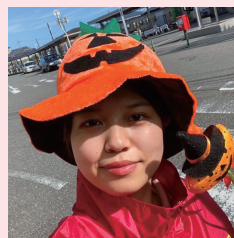
山下 欣恵

阿南市で暮らす外国人にインタビューを行い、「阿南人」の記事を作成しました。皆さんの温かさや多様な背景に触れ、新たな視点を得る貴重な体験となりました。この街で育まれる多文化共生の可能性を感じるとともに、読者の皆さまにもその魅力が伝われば幸いです。



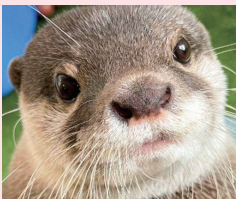
石野 貴輝

阿南市に住む外国人に着目しインタビューを通して地域研究を行いました。「人」に重点を置いた地域活動ができ、とても貴重な経験を得られました。お世話になった方々に御礼申し上げます。阿南市で精一杯活躍する方々の美しい姿を皆様にお届けできたら幸いです。



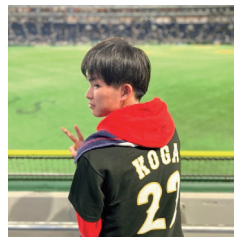
樽井 春香

「オールでいいんじゃないか」と毎晩考えるほど、楽しく充実した実習だった。そんな阿南市を実習地を選んで自分を褒めちぎりたい。インタビューの大変さや言いたいことを伝えられない「言葉の壁」にぶつかったことも今ではいい思い出だ。私を成長させてくれた阿南市に心から感謝しています



増田 颯

東京にいただけでは経験することのない毎日で、非常に充実していました。実習に来るまでは阿南という地域について全く知りませんでしたが、こんなにも自然が豊かで温かい人達にも恵まれている良い場所だと感心しました。阿南の皆様、本当にありがとうございました！



佐藤 湧介

初めて出会う言語や文化の異なる人にスマホ翻訳機能を使いながら、初めて訪れた阿南についてインタビューを行う。メモや音声記録を使って記事を書く。訂正を繰り返しながら。とても骨の折れる活動だったが、「なぜ阿南なのか」これは私が実習地として選んだ動機と変わらぬ気持ちだったのかもしれない。



田中 沙季

阿南実習では、東京では感じられない「地域愛」というものに触れることができ、将来自分が携わりたいと思える職業にも出会うことができました。自然豊かな地でのびのび過ごした2週間は、かけがえのない宝物です。お世話になったすべての方へ感謝申し上げます。



松本 朝陽

母国から遠く離れた日本で生活している外国人の皆さんのパワーに元気を貰いました！外国人を受け入れる面倒見の良さが阿南市民の皆さんの魅力だと感じました！特に私が記事を担当した井出農園の皆さんとの交流は、大切な思い出になりました。



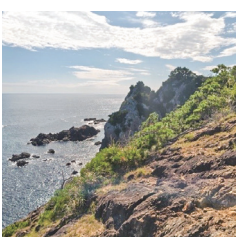
藤本 美貴

個人テーマに基づくアンケート調査を行い、地域文化や課題について深く学ぶことができました。温かい人々との交流や、可愛すぎる「あななん」との出会いも大きな癒しとなり、実り多い時間を過ごすことができました。貴重な経験をありがとうございました！



高梨 雄

阿南を地域実習先として選んで良かったです！地域実習以前から外国の文化や異文化を持つ人々に興味があった私にとって、外国人から見た「阿南の魅力」や「日本での暮らし」についてインタビューをするという体験は、2週間では足りないほど非常に充実した経験でした！



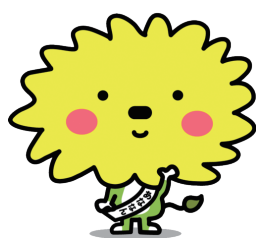
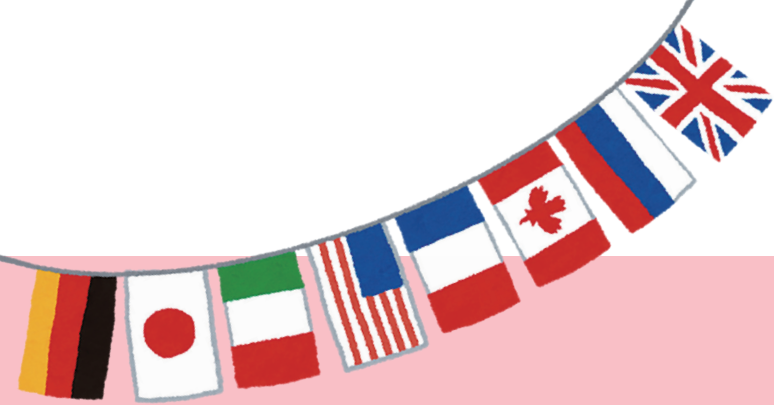
木坂 愛天音

「阿南人」のインタビューなどを通じて地元で活躍されている方々のお話を伺い、SUPや稲刈りなどを体験しながら自然と触れ合うことができました。様々な出会いに恵まれ、かけがえのない経験となりました！温かく迎えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。



平田 雪乃

マリベスさんに阿南での生活や仕事についてインタビューし、日本の風習に戸惑いながらも楽しく暮らす様子を伺いました。そして多様な文化や考えを受け入れることの大切さや外国人へのサポートの必要性を感じました。読後、「阿南人」が何かを考えるきっかけになれば嬉しいです。



「阿南人」

2025年2月発行

発行者：大正大学地域創生学部 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

監修：大正大学地域構想研究所阿南支局 阿南市富岡町今福寺42-1

TEL. 0884-49-3899 E-mail. s_suzue@mail.tais.ac.jp

本冊子は「みなみ阿波」若者創生協議会の令和6年度「県南地域づくりキャンパス」事業により制作いたしました。
キャンパス事業では、徳島県南部総合県民局と管内1市4町が連携し、徳島県南部圏域における関係人口の拡大や、若者の発想、
高等教育機関の専門的知見をいかした地域課題の解決を目的として、大学生等がフィールドワークを行なっています。



徳島県阿南市に住む、訪れる、関わる全ての人を「つなぐ」きっかけを
作るためのコミュニティサイト「阿南人」もチェック！